

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 126 2023 年 10 月 27 日発行

● 2024 年チェルノブイリ救援カレンダー お申込み受付中 ●

КАЛЕНДАРЬ НА 2024 ГОД «38 ЛЕТ ЧЕРНОБЫЛЬСКОЙ АВАРИИ»



2024 チェルノブイリ38周年救援カレンダー

制作 財団チェルノブイリ子ども基金

カレンダーの表紙:ウクライナ・ジトーミル州の放射能汚染地域から、さまざまな病気を抱えた子どもたちが西部カルパチア山中の施設を訪れ、2年ぶりの保養を行った。

★このカレンダーは、私たちの支援でこの夏の保養に参加した子どもたちの写真で構成されています。子どもたちに平和な日常と本当の笑顔が一日も早く戻るよう願いを込めて作りました。場所をとらないコンパクトなサイズです。ご自宅で、職場で、またご友人などへのプレゼントにもぜひご活用ください。ご注文をお待ちしています。

★カレンダーの収益は、チェルノブイリと福島原発事故により被災した子どもたちの救援金にあてられます。2023年版の収益は61万円でした。お申し込み方法など詳細は14頁をご覧ください。カレンダーのチラシも同封しています。



チェルノブイリ被害者家族の保養に参加した親子(ベラルーシ)



夏の保養に参加したさまざまな病気の子もたち(ベラルーシ)

～～ 本号の目次 ～～

- p.2～4 ウクライナ・子どもたちの夏の保養
- p.5～6 ベラルーシ・子どもたちの夏の保養
- p.7 ナロジチ公立初期医療センター
- p.8～9 ベラルーシ・チェルノブイリ被害者家族の保養
- p.10～12 ウクライナ・チェルノブイリ被害者家族への支援

- p.13 内分泌研究所／オヴルチ市立病院
- p.14 2024 年救援カレンダー
- p.15 カレンダーに登場する子どもたち
- p.16 ウクライナからの便り
- p.17 募金・救援状況
- p.18 事務局から

放射能汚染地域に住む病気の子どもたちのための保養

2023 年 夏 ウクライナ・ベラルーシ

今年は依然として戦争が継続する中、現地団体の尽力により、比較的情勢が落ち着いている同国西部の山あいにある施設で保養を実施することができました。ベラルーシについては、日本からの送金と受取りに不安があったものの、お陰様でこちらも無事に例年通りの保養を実施できました。

ウクライナ

■場所：子ども保養施設「ショコラード（チョコレート）」リビウ州ストルイ地区スラフスキエ

■期間：2023 年 7 月 11 日～7 月 22 日（12 日間）

■参加者：子ども 30 人（8～16 歳／ジトーミル州オヴルチ市、ナロジチ市、周辺の村より）、引率者 3 人

■参加者の病名：慢性気管支炎、慢性扁桃炎、心臓の病気、咽頭炎、慢性膀胱炎、側弯症

「チェルノブイリの子どもたちの生存」

ザクレフスキ代表からの報告

早朝 5 時、子どもたちを乗せたバスはオヴルチを出発し、30 分後にナロジチの子どもを乗せて行きました。到着までおよそ 10 時間かかりました。幸いなことに道中、緊急事態は起きませんでした。山岳地帯の狭い道は大型バスが通れないため、300m離れた停留場で降りて、そこからは徒歩で行きました。

私たちの団体は設立 32 年以来、戦時下で活動したことはかつてありませんでした。今回保養をしているオヴルチ、ナロジチの子どもたちはカルパチアの山や森を自由に歩き回ることができます。しかし自分たちが住んでいる家の近くの森にはま

だ多くの地雷があるため、そのような自由が奪われているのです。専門家によると、戦争が終わってもウクライナの土地から地雷を完全に撤去するには相当な年数がかかるということです。

保養施設には私たちのグループの子ども 30 人のほか、ウクライナ各地からやってきた 50 人の子どもが滞在していました。80 人の子どもたちは年齢別に分けられ、それぞれのグループに施設側の担当者（大学生の保養指導員）と、私たちの引率者が子どもたちの生活全般の世話をしました。朝の体操から始まり、毎日それぞれの予定表に従って生活しました。

子どもたちはすぐに保養施設での生活に慣れ、みな仲良くなりました。プールで泳いだり、山へ遠足に行ったり、毎日さまざまな催し物に参加して過ごしました。

<子どもたちの感想>

★エフゲニヤ（オヴルチ地区）13 歳

素晴らしい雰囲気包まれた場所で、毎日があっという間に過ぎ去りました。私たちは一つの家族のようにとても仲良くなりました。食事もととても美味しく、かつ体に良いものです。毎日プールで泳ぎ、川べりを散策したり、山へ遠足に行ったり、多くの時間を自然の中で過ごしました。



保養にやって来て気持ちを落ち着かせることができました。家に帰りたくなるほどでした。ここで過ごしたことを私は一生忘れることはないと思います。このような機会をくださった日本のチェルノブイリ子ども基金と支援者の皆さんに心から感謝の言葉を贈りたいと思います。

去年はベラルーシ側からロシアの侵略軍が私たちの町に向かって攻撃をしかけていました。私の父は戦場に赴き、ウクライナの人々を守る任にあたりました。現在はベラルーシとの国境警備にあたっています。

今、世界中の人たちがウクライナを支援してくれています。たくさんの方が支えてくれていることは、嬉しいことです。そしてただ一つ、ウクライナがこの呪われた戦争に勝って、父が生きて元気に家に戻って来てくれることを願っています。

★オレクシー（オヴルチ市）8歳

サッカーが好きで、スポーツの時間にはいつもサッカーをしています。キャンプは楽しいです。ディスコやアニメ、プール、四輪バギーに乗るのも好きです。この夢のような日々を、チェルノブイリ子ども基金にありがとうと言いたいです。キャンプでは戦争のこわさから休むことができました。去年、ベラルーシ側からロシア軍がやってきて、とてもこわかったです。病気のおじいさんが車1台にぼくとママ、おばあさん、ネコのリュジクのほか、男の人5人を乗せて、逃げ出すことができました。ぼくのお父さんは国を守るために残りました。

★マクシム・N（ナロジチ市）14歳

僕たちの国では戦争が起きています。僕自身、この戦争に巻き込まれました。僕の住んでいる町は、ベラルーシとの国境から15キロの場所にあります。戦争が始まって最初の何か月間かは地下室に身を隠していました。とても恐ろしかったです。僕の家で近くで橋が爆破されました。

今年の夏、僕たちは、カルパチアの山の中にある子ども保養所「ショコラード」にやって来て、保養することができました。こうした機会を与えてくれた、日本のチェルノブイリ子ども基金の皆さんに感謝します。

静かで、落ち着いていて、きれいな場所なので、もう家には帰りたくなってしまいます。僕たちはここで元気に楽しみ、色々なゲームや競技をして遊んでいます。そして沢山の友だちと出会うことができました。

★ナースチャ（ナロジチ市）16歳

チェルノブイリ子ども基金に、わたしの町の近くで起こった恐ろしい出来事を少しでも忘れさせてくれたことにお礼を言いたいです。今も、私の家の上をミサイルが飛び、爆弾が近くに落ちた時のことを思い出すと、鳥肌が立ちます。

去年は私と家族にとって、他のウクライナ人一人一人と同じように、とても辛い年でした。戦争が起こって間もなくして、私の家族は身の安全のため故郷である町を離れて避難しなければならませんでした。私はもうこれで終わりだと思いました。この年はこれまでで一番恐ろしい年でした。



幸せなことに、今こうしてカルパチアで過ごし、国で起こっている恐ろしい出来事から少し気を紛らわせる機会を与えられました。ここに来られたことは、今年私に起こった一番よいことでした。

私たちは毎日楽しく過ごしています。山の景色は美しく、素晴らしい友だちもできました。プールや山へ散歩に出かけ、ディスコで踊っています。経験したすべての恐ろしいことを、空襲警報やサイレンの音さえ、わずかの間忘れられました。子ども基金のみなさんのおかげでこの夏は忘れられないものになりました。日本がこの残酷な戦争でウクライナを支援してくださっていることにも感謝しています。

このキャンプの「前」と「後」で、私の人生は変わりました。ここでの一瞬一瞬を大事にし、少しでも前向きな感情を得るように努めています。みなさん、ありがとうございます!!!

★アリーナ（オヴルチ市）14 歳

去年、私たちの国では戦争が始まりました。私たちの町はベラルーシ側からとても酷く砲撃されました。破壊された建物があります。ウクライナではとても多数の兵士や一般市民が死亡しました。最初の日から私のパパは戦争に行きました。今は、国の東でウクライナを守っています。

私はずっと町に留まっていました。子ども芸術アカデミーに通い作品を作りました。警報が鳴ると、私たちは地下の部屋に避難しました。

国でこのような事が起きている時に、私たちがこの保養施設で休養する機会を持てていることに感謝します。山の景色がとても美しいです。数日

後には家に帰らなければなりません。地下室で息を潜めていることを思い出します、この憎むべき戦争が終わり、私たちが誰も恐れないですむことをとても望んでいます！

★マクシム（ナロジチ市）16 歳

チェルノブイリ子ども基金のおかげで、僕たちが経験してきた悪夢から逃れ、休暇の機会を得ることができ、感謝しています。

戦争が始まったばかりの頃、僕たちを支配していた悪夢、僕たちの一人一人の中にあった恐怖、静けさや平和への最後の願いを諦めさせた孤独を今、思い出します。ミサイルや砲弾の雨、犠牲者、爆発を思い出します。建物が爆発した様子や、ナロジチの橋が爆破された様子を覚えています。

家を出て遠くまで避難したことを思い出します。避難所が見つかりましたが、家に戻る希望は日に日に薄れていきました。2 か月間、イヴァノ・フランキウシクに避難していました。その間、ナロジチの建物や居住地は爆撃がひどくなっていきました。ナロジチで起こっていることは全部知っていましたが、自分の家が無事であるよう祈ることしかできませんでした。

今、僕はこの手紙を書きながら、地下室の板の上ではなく柔らかなソファに座っていて、爆発の煙ではなく新鮮な空気を吸って、ミサイルの飛ぶ音ではなく仲間たちと引率者たちの明るい声を聞いています。僕はここで平穏と休息、友だちを見つけ、ぐっすり眠ることもできました。家に帰りたくないと思うのは初めてです。ここは本当によいところです。ありがとうございます！



ベラルーシ

■場所：子どもリハビリ・健康回復センター

「ナデジダ（希望）」ミンスク州ビレイカ地区

■期間：2023年8月3日～8月26日（24日間）

■参加者：子ども32人（9～17歳／ゴメリ州ゴメリ市、ゴメリ地区、レチツァ市、チェチェルスク市、ドーブルシ市、モーズィリ市）、引率者2人

■参加者の病名：神経芽細胞腫、出血性脈管炎、血小板減少症、腎臓がん、精巣がん、卵巣がん、横紋筋肉腫、くも膜嚢胞、目の腫瘍、悪性末梢神経腫瘍、骨盤胚細胞腫瘍、悪性リンパ腫、肝臓がん、後腹膜神経芽細胞腫、下垂体線種、線維肉腫、（この他、心臓の異常、脊柱側弯症、慢性胃炎、気管支炎などの病気を持つ子どももいる。）

ベラルーシのNGO「困難の中の子どもたちへ希望を」に所属しているさまざまな病気の子子どもたちが保養に参加しました。日本の里親から支援を受けている子ども14人も参加。そのうちの1人、ダリヤさん（14歳）は2022年8月に悪性末梢神経腫瘍の手術を受け、同年10月まで治療を受けていました。

トルスタヤ副所長からの報告：今回は大変天気に恵まれ、子どもたちは多くの時間を自然の中で過ごすことができました。近くの湖への散歩とそこの水浴びや日光浴を何度もすることができました。そのおかげか、風邪をひいたり体調をひどく崩してしまったりするような子どもはいませんで

した。また、グループ内の年齢差が大きいことは、プラスに働きました。年長の子どもは年下の子どもの面倒をみたり、引率者や先生たちを手伝ったりしていました。何度が保養に参加している子は、初めて参加した子どもたちが馴染めるように努めていました。毎年こどもたちの引率者として参加している2人の女性は、ここでの生活のことがよくわかっていて、私たち職員と良い関係が築かれているため、何か問題があるとお互いに相談し合い、すぐに解決しました。

ソコロワ医師からの報告：このグループはみな、がんなどの重い病気の子どもたちです。免疫力が低いためにかぜをひきやく、そこからさらに体調を崩してしまうと大変です。ナデジダでは自然由来の治療（※）を提供していますが、それ以外にも規則正しい生活習慣を身につけ、安全で栄養のバランスの取れた食事をとり、自然の中で体を動かしたり、仲間たちと一緒に何かに取り組んだりするなど、体と心の両面から元気になっていくようサポートしています。

※ナデジダ到着後に行う健康診断により、マッサージ治療、運動療法、薬草療法、岩塩治療、アロマセラピーなど、それぞれの体調に応じた治療を受けます。

<子どもたちの感想>

★クリスティーナ（ゴメリ市）17歳

私はこれまで何度もナデジダで保養をしました。日本のみなさんのおかげでこの素晴らしい場所で過ごせたことにとっても感謝します。ナデジダは私



にとってもう一つの家のような存在になりました。一緒に過ごしたグループの仲間たちは家族のようになりました。ここで過ごしたことは忘れることのできない素晴らしい思い出です。ナデジダの周りは林に囲まれ、きれいな景色の貯水湖が近くにあります。そして何よりナデジダのスタッフが素晴らしい人たちです。その人たちのおかげで、まるで自分の家で過ごしているようなリラックスした気持ちになれます。毎日行われる催し物は、何か新しいことを知ったり、新しい自分を発見したりすることができます。私はここでとてもたくさんの友だちができました。もしかしたら、ナデジダで何年も保養をしたことが私の職業を決めることにつながったのかもしれませんが。私は自分より小さい子どもたちと接したり、面倒をみたりすることが好きです。それで教師になることに決めました。残念なのは、ナデジダに来るのが今年で最後だということです。これまでのたくさんの良い思い出をありがとうございます。

★マトヴェイ（ゴメリ市）15歳

僕はこれまで何年もナデジダに来ていますが、来るたびにいつも大満足しています。そして来年もまた来たいと心から願っています。ナデジダの楽しいところは、ゲームやコンクールなどのたくさんの催し物があることです。それから食事がとてもおいしいです。またいろいろな種類の医療を受けることもできます。施設内の庭、貯水池などで、新鮮な空気の中で過ごすことができます。ナデジダで保養をする機会をくれた日本の皆さんに感謝します。

★ヤロスラフ（ゴメリ市）10歳

僕はナデジダでの保養が大好きです。ナデジダの敷地はとても広いです。食事がとてもおいしくて、たくさんの面白い催し物があります。それからグループの友だちはみんな仲良しでした。近くにきれいな湖があるのもよかったです。先生たちもみんな優しくてよい人たちです。足裏マッサージの道を歩いたり、自転車に乗ったり、サッカーをしたのが楽しかったです。こんなよいところで過ごさせてくれてありがとうございました。

★リーザ（ゴメリ市）14歳

ナデジダの近くには美しい景色の貯水湖があり、そこで泳いだり遊んだり、ゆったりした気分で過ごすことができます。施設内の自然もとても美しく、どこも手入れが行き届いています。食堂の食事は美味しくて健康的なメニューが豊富に揃っています。毎日コンクールや催し物があり、日常生活から離れて心から楽しむことができます。私は木工細工の教室に参加するのが特に楽しかったです。ほかにも各教室の先生たちは、羊毛フェルトやビーズ細工などを教える経験豊富な人たちです。複雑で、時間をかけていろいろなものを作り上げていくのが私にはとても面白かったです。施設の隣にはアスレチック公園（※）があります。そこでは思いっきり冒険気分を味わいました。私だけでなく、ここを何度も訪れている他の子どもたちにとっても、ナデジダは第二の故郷となっています。

※ドイツのNGOの支援で作られた公園。仲間と協力して行うタイプの遊具が多く設置されています。



ウクライナ ナロジチ公立初期医療ヘルスセンター

子ども基金では昨年、ウクライナの3か所の医療施設に医薬品と医療機器の緊急支援を行いました。そのうちのひとつ、ジトーミル州ナロジチの初期医療ヘルスセンターへの支援について基金ニュースNo. 124(2023年2月発行)で次のように報告しました。

「支援要望リストにあった自動血液分析装置は昨年12月16日にセンターに納入されました。しかし電力設備への攻撃による度重なる停電により、しばらく使用ができませんでした。そして年明けの1月4日、ようやく血液分析装置が使えるようになったとの連絡があり、翌日には写真も送られてきました。その後、センター長の人事異動があり、支援要望のディーゼル発電機と医薬品の購入手続きが少し遅れている、という連絡がありました(2月4日)」

その後、電力の問題はなくなったため発電機の購入を止め、支援金の残額は紙おむつ、粉ミルク、医薬品等の購入に充てたいという連絡がありました。

「チェルノブイリの子どもたちの生存」のザクレフスキー代表が何度も医師や薬剤師たちと連絡を取り、このたびようやく必要な品物を購入し、患者たちに手渡したという報告が届きました。購入品のリスト、支払い証明、受領証明等の書類と共に、品物を受け取った患者たちの写真も届きました。日本からの支援とわかるように基金シールを貼っています。

下写真・左：医療センターで紙おむつと粉ミルクを受け取った生後6カ月のミラーナと母親。

中央：生後7カ月のナザールと母親。バザール村。

右：生後6カ月のアンドレイと父親。バザール村。
ナザールとアンドレイには、このセンターの小児科医が村の新生児を訪問診療の際、子ども基金からの支援物資を手渡しました。



生後11カ月のアリーサと両親。「日本のチェルノブイリ子ども基金の皆さんにお礼を伝えてください」とのメッセージが付いていました。



8歳のアナスタシヤ。子ども基金の支援金で購入した吸入器(ネブライザー)により閉塞性気管支炎の治療を受けている。



ベラルーシ チェルノブイリ被害者家族の保養

■場所：子どもリハビリ・健康回復センター

「ナデジダ（希望）」ベラルーシ・ミンスク州

■期間：2023年7月20日～8月2日（14日間）

■参加者：8家族 22人：大人 10人（37～40歳）、子ども 12人（5～13歳）

ゴメリ市から4家族、ゴメリ市近郊の村、チェルヌスク市、ナロヴリャ市、カリンコヴィチ市からそれぞれ1家族が参加。

甲状腺手術後の親とその子どもたち6家族と、小児がんの子どもとその親たち2家族が参加しました。甲状腺の手術後、定期検査と甲状腺ホルモン剤の服用が欠かせません。参加者のうち2人の女性は、20年前（10代の頃）ナデジダで開催した子ども基金の保養プロジェクトに参加していました。小児がんの子ども2人は、日本の里親から支援を受けています。

保養の終わり頃、事務局の佐々木は参加者たちとオンラインで交流をしました。その後、ナデジダの担当スタッフと小児科医から、参加者と保養の様子についての話を聞きました。

ソコロワ医師の話：参加した8人の母親のうち6人が甲状腺の手術を受けています。甲状腺ホルモン剤は、手術後の患者にとって生きていくのに必要な薬です。しかし最近、外国製のホルモン剤の輸入に問題が起きています。長年外国産の薬を服用してきた人にとって、国内産の薬は合わないといひます。甲状腺手術後の症状の特徴として、疲

れやすさ、だるさ、不眠、記憶力の低下などがあります。ナデジダではこれらの症状を緩和するために、心をリラックスさせることが大事だと考えていて、特に水圧マッサージなどは効果があります。保養後の感想の中に、ここに来てからよく眠れるようになったと書いている人もいます。

それぞれの母親は、甲状腺以外にも、消化器官の病気や、胃腸、腎臓に深刻な問題のある人がいました。参加者のうち2人の子どもは腎臓の深刻な病気で、それぞれ生後6か月と1歳で手術を受けています。呼吸器官や骨に問題のある子どももいました。それぞれの体調に合わせた治療を受けました。おとも子どもも、全員が風邪をひきやすく治りにくい傾向があります。これは放射能汚染地域に住んでいる人の典型的な症状です。安全で栄養のある食べ物を食べて、楽しくゆったりした気分で過ごすことにより、免疫力を高めることを目指しています。

*** 参加者たちの感想 ***

ヴィクトリヤ（39歳） ナデジダには、甲状腺手術後の子どもの頃に3回来たことがあります。今回は9歳の息子と2人で参加しました。息子は頻繁に風邪をひき、アレルギーと神経症もあります。私も息子も保養のおかげで体調がよくなりました。職員がみな親切で、食堂の食事はいろいろなメニューに富んでいて美味しかったです。保養に招待してくださったことに深く感謝します。





オリガ (39 歳) 私はこの 1 年間で 2 回肺炎にかかりました。この保養に参加する少し前も貧血で入院していました。普段から頭痛、腕や足のけいれん、また心拍数が高くなることがよくあります。気分が変わりやすく、急に不安になることがあります。2 人の息子はよく風邪をひきます。特に長男は体が弱く、肺炎にかかることもあります。ナデジダで過ごした思い出は素晴らしいことばかりです。ここでの保養のおかげで、私も子どもたちも健康状態がよくなり、精神的にも落ち着きました。



ターニャ (39 歳) 疲労、めまい、心拍数の上昇、精神的ストレスなど、甲状腺の手術後からこのような症状に日々悩まされています。長女 (13 歳) は甲状腺に問題があります。でもこれが私の人生なのだと思います、自信をもって生活を送っています。ナデジダはスタッフのあたたかい対応、さまざまな治療、おいしい食事、清潔で快適な部屋、すべて素晴らしかったです。周囲の自然環境も空気がきれいです。子ども用の遊具や、親子で参加できる教室などがたくさんあり、毎日楽しく、充実していました。普段私たちが暮らしている地区 (ゴメリ州チェチェルスク) では、子どもたちが放射能の影響を受けないよう、食べ物などいろいろなことに気を付けて暮らしています。日本のみなさんも、どうぞ子どもたちの健康を一番に考えて生活してください。



ポリーナ (32 歳) 5 歳の息子は、生後 6 カ月で腎臓の手術を受けました。今のところ体調は安定していますが、温度差などで体が冷えるとすぐに風邪をひきます。そこから重症になる危険もあるため、いつも気を付けています。きれいな森と空気、それは思っていた以上に私たち家族全員の心と体を休めてくれました。このような機会をくださった日本のみなさん、ありがとうございます。病気の子をもつ親には忍耐と強さが必要です。何があっても気落ちせずに、よいことだけを考えるようにしています。子どもは元気になる力を持っていると信じています。



昨年（2022 年）4 月に続き、9 月にスウェーデンの NGO「star of hope」と協力して、子どもの頃に甲状腺がんの手術を受けたウクライナのチェルノブイリ被害者への支援を行いました。「star of hope」は子ども基金と同じように、チェルノブイリ事故後、ウクライナとベラルーシの甲状腺手術後の子どもたちの支援を開始しました。そして現在、30 代後半～40 代の年齢になっている彼ら彼女らと、その子どもたちの支援を続けています。

今回支援金を受け取った人の中には、かつて子ども基金が日本に招待した人や、子ども基金の保養プロジェクト（甲状腺手術後の子どものための特別保養）に参加した人たちがいました。

~~~~~

### 「star of hope」ウクライナ支援担当 ジャマルさんからの手紙

●9 月 6 日 残念なことにウクライナの私たちの友人たち（甲状腺の手術を受けた人たち）にとって状況はさらに悪化しています。昨年に続き、各家族への経済援助を計画しています。冬になる前に発電機購入の資金援助も必要なため 9 月中旬にキーウ（キエフ）を訪問する予定です。ぜひまた二つの団体で協力していきましょう。

●9 月 19 日 スウェーデンに無事帰国しました。帰る途中ポーランドでワジムに会いました。彼は 1997 年にスウェーデンで私たちの団体の保養プロジェクトに参加していた一人です。経済的な問題でこれ以上待てないと、2 か前にポーランドへ避難しました。

私には人々がこの戦争で疲弊しているように見えます。彼らは近い将来平和が訪れるとは思っていません。友人たちといろいろな話をする中でわかったのは、残念ながら、希望と楽観は幻滅と悲観に変わってしまったということです。今でもたくさんの方が国を出ていきます。その多くは女性と子どもたちです。往路のウクライナ行きのバスの乗客は 10 名ほどでしたが、復路のポーランド行きのバスは満員でした（男性 5 名、ほかは全員女性と子どもたち）。今、若者は軍隊に入隊させられることを恐れています。この状況を彼らの親も心配しています。私にはその気持ちが良く分かります。どんな人も今まで慣れ親しんだ普通の生活を送りたいと思うでしょう。また、戦争前に比べると通りには人が少なくなりました。友人たちは健康状態や経済的な心配をしています。今回の私たち両団体からの支援は、少なからず彼らに力と希望を与えたでしょう。

- ・ 前回支援したのは 50 家族でしたが、この間に 6 家族が国外に避難したので今回は 44 家族でした。
- ・ コースチャが発電機を購入するための経済支援もしました。彼はロシアとの国境近くに住んでいます（p. 12 に報告を掲載）。
- ・ イーゴリの娘へのインタビューをしました。イーゴリと彼の家族は難民としてスウェーデンにきましたが、彼の 16 歳の娘はウクライナに戻ったからです。彼女にとってはその方が良かったようです。

※ジャマルさんは長年支援を続けているかつての「チェルノブイリの子どもたち」を「友人たち」と呼んでいます。

### ＜支援金を受け取った家族＞

#### ★オレーナ

神さまと我が国の軍隊のおかげで私たちはチェルニヒフ（チェルニゴフ）の家で過ごすことができます。今年、次女のヤーナは 1 年生になりました。長女のエヴァはもう 7 年生です。

※オレーナさんはかつて子ども基金の招待で来日していました。p. 12 をご覧ください。

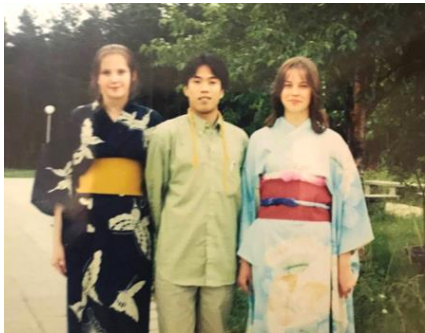




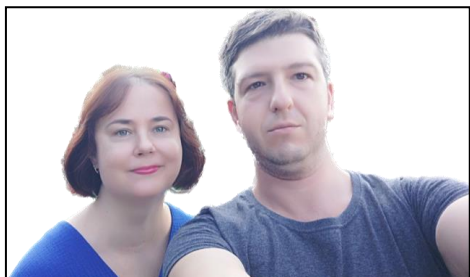
### ★リリヤ

チェルノブイリ子ども基金とstar of hope のみなさん、いつもご支援をありがとうございます。以前私は営業マネージャーとしてリモートで働いていました。2022 年 10 月にキーウが砲撃された後、私は職を失いました。その時は電気もインターネットも水道も暖房ありませんでした。夫の給料も減りました。おそらく彼も 12 月には失業するでしょう。私の健康状態はひどく悪化しました。常に鎮静剤を服用しなければなりません。私たちはブチャとホストメリ（ゴストメリ）の近くに住んでいます。戦争の最初の日から、ロシアの戦車が私の地域を通過しました。とても恐ろしかったです。今、私たちみんなの願いはただひとつ、戦争が終わってほしいということです。子どもの頃にスウェーデン、ベラルーシ（ナデジダ※）、オチャコフ（ウクライナの保養施設「ユージャンカ※」があった町）で過ごした頃の思い出に心があたたかくなります。その頃の写真にはたくさんの友達と、たくさんの思い出が写っています。ご支援をありがとうございます。これは今の私たちに大変貴重なものです。私たちを忘れずにいてくれてありがとう。

※どちらも子ども基金が開催した保養プロジェクト



1996 年ベラルーシ「ナデジダ」にて。  
右がリリヤ。



リリヤと夫

### ★アレーシャ

star of hope と子ども基金のみなさんからのご支援は私たち家族にとってとても大切なものです。今は骨に問題がありますので、いただいたお金で関節リウマチの薬などを買いました。

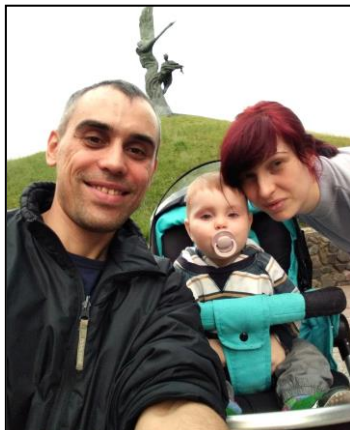


アレーシャと息子

### ★オレグ

スウェーデンと日本の基金のみなさんからのご支援に感謝します。お金は日用品、薬、食料のために使います。私と家族はウクライナの中心部、クレメンチュク市に住んでいます。現在、この地域では軍事作戦は行われていません。安全だと思うので、町を離れることもウクライナから出ることもしませんでした。家族の写真と領収書を送ります。ほんとうに

ありがとうございます！



オレグ  
息子マクシム  
妻マリーナ

## ★コースチャ

star of hope と子ども基金のみなさん、私と家族にとって大変困難な時にご支援くださりありがとうございます。おかげで発電機を購入することができました。みなさまに平和とご健康をお祈りします。

※ジャマルさんより：電力施設が攻撃されても、これで彼らは冬を乗り切ることができます。



コースチャ  
と両親

## ★ターニャ

ご支援をいただいた両基金のみなさんにお礼を申し上げます。これは私たち家族にとって非常に大切なものであり、みなさんに支えられているのだということを感じることができます。物価は大幅に上昇し、賃金は低下しており、厳しい状況にあります。みなさまからいただいた支援金で、海外（ポーランドとトルコ）に1年半分のチロキシン（甲状腺ホルモン



剤）の注文をすることができました。また、冬の停電に備えて充電式ランタンを購入しました。明かりと暖房を準備してこの冬を乗り切りたいと思います。もう一度お礼を申し上げます。そしてみなさまのご多幸をお祈り申し上げます。

\*\*\*\*\*

ジャマルさんからさらに次の連絡が届きました。

●9月20日 リューダが9月15日に亡くなったという知らせが届きました。肺炎にかかり、彼女の心臓は持ちこたえられなかったのだそうです。子どもの頃から支援してきた彼女が亡くなり、私たちスタッフはみなとてもショックを受けています。

子ども基金は1997年に、ウクライナとベラルーシの甲状腺手術後の子どもたち10人と、両国の各団体の代表者を日本に招待し、各地で自分たちの体験を話し、日本の人たちと交流をしました。その時の様子は「基金ニュース No. 28、29（97年3月、6月発行）」に掲載しています。P.2に掲載のオレーナも、そしてリューダも来日メンバーでした。また彼女はベラルーシの「ナデジダ」とウクライナの「ユージャンカ」での子ども基金の保養プロジェクトに毎年参加していました。過去の子ども基金のカレンダーにもリューダの姿を見ることができます。私たちにとても忘れられない子どもの一人でした。尚、97年にリューダと一緒に来日したインナは2009年に亡くなっています。



左 オレーナ、中央 リューダ、右 インナ  
3人とも当時12歳。この写真はp.10で紹介しているオレーナから送られてきました。

左に紹介しているターニャと亡くなったリューダは同じ村の出身。子ども基金の保養プロジェクトにはいつも一緒に参加していました。



## ウクライナ 内分泌研究所

ウクライナの内分泌研究所では甲状腺疾患の患者の手術と治療を行っています。子ども基金は長年にわたり医薬品や医療機器の支援を行っています。今回も手術後の患者に必要な甲状腺ホルモン剤「エウチロクス」を支援しました。9月25日、薬を受け取った患者たちの写真が届きました。左から、セルゲイさん（1979年生まれ）、エレナさん（1978年生まれ）、エレナさん（1962年生まれ）。チェルノブイリ事故当時は7歳、8歳、24歳という年齢です。3人とも、事故から37年後の今年になってから甲状腺がんを発症しています。内分泌研究所で手術を受け、その後は定期検査と治療を続けています。

チェルノブイリ子ども基金のみなさまへ

長年にわたるご支援とご協力に、そしていま私たちの国が困難な時に支えていただき深く感謝いたします。

甲状腺がんの手術を受けた患者になくってはならないホルモン剤「エウチロクス」購入のためのご支援にお礼を申し上げます。患者たちはこの薬が毎日、そして生涯にわたり必要です。

ご支援により、3310箱の薬を購入しました。9月の初めからすでに163人の患者に対して561箱の薬が渡されました。

私たちの協力関係はとても貴重なものであり、これからもこのような関係が一層強く続いていくことを願っています。

内分泌研究所 所長 トロンコ

## オヴルチ市立病院

子ども基金は2011年この病院に保育器を、2022年には医薬品を支援し、基金ニュースの本年2月号で報告しています。その後さらに医療用のライトを支援しました。

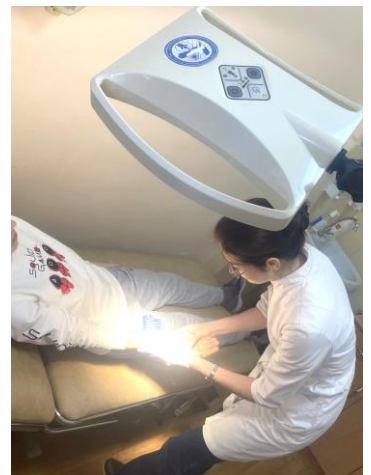
\*\*\*\*\*

私たち病院スタッフは、この国が困難な時にみなさまからいただいたご支援に大変感謝しています。

今年1月～9月まで当院の産科では145人の子どもの出産がありました。また同期間、小児科では643人が治療を受けました。産婦人科の外来診療部門では、845人の妊婦の検査を行いました。医療リハビリテーション部門では194人の患者が支援を受けました。

2023年10月11日

ウクライナ ジトーミル州  
オヴルチ市立病院 院長 シュバン



# 2024チェルノブイリ 38年救援カレンダー

～ チェルノブイリと福島の子どもたちの救援にご協力をお願いします ～

●カレンダー 定価 900 円 送料:9 部まで 200 円 (10 部以上:1 部 800 円/送料無料)

●お申し込み方法:E-mail、Fax または郵送でお申し込みください。

●お支払方法:お届けするカレンダーに同封の郵便振替用紙でお振り込みください。

●カラー、サイズ:縦 30 cm×21 cm(見開き A4 サイズ)

※2023 年版と同様のサイズです。

●写真提供:ウクライナ「チェルノブイリの子どもたちの生存」

ベラルーシ「子ども健康回復センター 希望」

●デザイン:川島進デザイン室 ●発行・制作:チェルノブイリ子ども基金



\*制作原価の高騰と円安による支援額の見減りなどを考慮し、カレンダーの販売価格を値上げすることになりました。毎年ご購入いただいている皆さまにご負担をおかけすることになりますが、どうぞご了承下さい。

\*\*\*\*\*

## カレンダーに登場する子どもたちのその後の生活

カレンダーの写真の子どもたちは、保養施設にいる間は安全で友だちや先生たちに囲まれて笑顔で過ごしています。しかしウクライナではまだ戦争が続いていて、日々不安は消えません。保養に参加した子どもたちが通っているナロジチの学校と、オヴルチの子どもアカデミーの新学期の様子が伝えられてきました（新学期は9月に始まります）。

【ナロジチ・リツェイ】 昨年、戦争が始まってから、ほぼ全員の子どもたちがナロジチから避難しなければならない状況でした。そのため遠隔授業が行われていました。しかし今はそれぞれの家に戻ってきていますので、今年の新学期、子どもたちは学校にやってきました。それはよいことなのですが、やはり今も続く昼間の空襲は学校生活にとって最も不便なことです。学校では390人の生徒が学んでいますが、全員を一度に避難させることは困難です。まず初めに年少クラスの子どもたちを地下へ避難させ、その後で年長クラスの子どもたちを避難させます。全員が地下に避難するにはかなり時間がかかります。「みんなを保養に招待してくれた日本の友人たちが、今どうしているかと心配していますよ」と私が話すと、子どもたちは笑顔になりました。（ナロジチ・リツェイ 教師タチヤナ）

（「リツェイ」とは専門分野の科目に力を入れて勉強をする学校です。）

夏の保養に参加した子どもたち。



下の写真は「教師の日」のコンサートの様子。この中の数名が、夏の保養に参加していました。





## 【オヴルチ子ども芸術アカデミー】

9月15日から新学期が始まりました。子どもたちはそれぞれの教室に通ってきています。しかし空襲警報が鳴ると子どもたちは地下の部屋に避難をしなければなりません。これは私たちの学校だけでなく、オヴルチとナロジチの教育機関はみな同じようにしています。今年の新学期からは、80人の新たな子どもたちが教室に通うようになりました。多くの子どもたちがこの教室に興味を持つようになったということも、チェルノブイリ子ども基金のおかげです。

新入生の中には、オヴルチ市の近くの村に住んでいる子どもが多くいます。さらに遠くの村にも、ここで学びたいと思っている子どもたちがいますが、空襲やその他の危険があるため、親たちが通わせることを心配しています。

10月はじめの様子を写した写真を送ります。そこには夏のカルパチアの保養に参加した子どもも何人が写っています。普段の教室の様子、空襲警報で避難をして、地下の部屋で授業を行っているところです。

(オヴルチ子ども芸術アカデミー 校長ニコライ)

※地下には、冬などに子どもたちが運動をするために作られた体育館があり、そこへ避難して授業を行っています。



空襲警報が解かれ地下の避難所から出てきた子どもたち



木工細工の教室



ステンドガラスの教室



空襲警報により地下へ避難する様子



地下の部屋で行われているわら細工の教室。卓球台を机にしている。中央に立っているのがニコライ校長

## ウクライナからの便り

前号ニュースレターの発行からこれまでに事務に届いていたウクライナの人々からの手紙を紹介します

\*\*\*\*\*

**インナ**（41 歳） 子どもの頃甲状腺の手術を受け、2014 年に子ども基金の招きで来日。自らの体験を話しました。2022 年 7 月から夫と娘とドイツに避難しています。

●7 月 22 日 私たちは 2 週間前からキーウ（キエフ）に戻ってきています。自分の故郷にいられるのはなんてうれしいことでしょう！娘は家に足を踏み入れたとき、うれしくて泣いてしまったくらいでした。母と妹に会うのは 1 年ぶりでした。母も泣いていました。とても私たちに会いたがっていたのです。今の気温は 25 度で、夏らしい良い天気です。ドイツでは 2 週間ずっと雨で、14 度という気温でした。自分の家に帰ってきて私はやる事がたくさんあり、毎日忙しくしています。今日は「ロミオとジュリエット」の芝居を見に行きました。芝居を見るなんて本当に久しぶりでした。娘は友だちと会っています。町の中は落ち着いています。時々サイレンが鳴りますが、町はよく守られています。でもウクライナの他の町の状況はよくありません。それから食品や医薬品がひどく値上がりしました。

\*\*\*\*\*

**NGO「チェルノブイリの子どもたちの生存」**

**代表 ザクレフスキー**

●8 月 4 日 今日、里親支援金を各家族へ送金しました。何人かの家族と電話で話をしました。このところキーウは、毎日 3 ～ 4 回警報が発令されることを除けば、比較的平穏です。3 日前、私の家の近くでミサイルがドローンを撃ち落としました。これほどの爆音を聞くのは久しぶりでした。爆風により、近隣の建物の多くのアパートの窓ガラスが割れ、私の家から 300 メートルほど離れたところに墜落したドローンの破片が落ちました。そこは子ども用の小さな公園なのですが、夜中の出来事だったため、被害に遭う人は誰もいませんでした。

●9 月 25 日 こちらはまだ暑さが続いています。日中は 27～28 度で、雨がほとんど降っていません。ウクライナでかつてこれほどの暑い 9 月はありませ

んでした。ロシアはドローンやミサイルでウクライナのエネルギー施設への攻撃を続けています。冬も暖かいことを祈っています。

\*\*\*\*\*

**ニコライ**（38 歳）チェルニヒウ（チェルニゴフ）

●8 月 20 日 私の住む町でロケット弾により 6 歳の子どもを含む 7 人が亡くなり、140 人が負傷しました。そこは町の中心部で、自分の家からバスで 5 つ目という非常に近くで起きたことです。このような状況の中で暮らすのはとても怖いです。

●9 月 27 日 状況は変わらず、警報が絶え間なく鳴っています。これから冬に向うのでエネルギー施設への攻撃を心配しています。電気や暖房なしで過ごすことになるのではないかと。前に攻撃で壊された屋根の修理が完全に終わっていません。母は常に体の調子がよくありません。自分も甲状腺の他に、心臓や骨にも問題があり、手足や背中の痛みがあります。兄は足の指をすべて切断する手術を受けました。薬代も食品代もひどく値上がりしています。そして忌まわしい戦争がいつ終わるのか分かりません。

\*\*\*\*\*

**オリガ**（36 歳）ジトーミル

●10 月 10 日 明日夫は病院に定期検査に行きます。残念ですが彼の体調はあまりよくありません。私は慢性肝炎と診断され、もう 2 か月間通院しています。ほかにも貧血と消化器官の病気もあり、それぞれ薬を飲んでいますが、体調がよくなっていると感じられません。さらに斜視と近視が進行し、特別な治療が必要です。体のあちこちの調子が一度に悪くなり、心身ともに疲れてしまっています。常に検査と治療が必要なため、学校の仕事を辞めなければなりませんでした。今は日に数時間の仕事ですので収入が減り、経済的にも厳しいです。散歩や読書などでせめて気分を良くしようと努めています。

※上記のニコライさんとオリガさんは、子どもの頃に甲状腺の手術を受け、子ども基金の保養プロジェクトに参加していました。厳しい状況が続いているため支援金を送金しました（10 月 12 日）。





## 募金・救援状況



## ●募金状況

2023年6月～9月

(単位:円)

|         | 6月        | 7月        | 8月        | 9月        |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 募金件数    | 128       | 74        | 42        | 29        |
| 救援寄付金   | 783,786   | 838,894   | 92,730    | 75,920    |
| 保養費     | 32,500    | 56,055    | 12,000    | 39,000    |
| 里子支援    | 21,990    | 305,610   | 1,048,430 | 2,003,400 |
| ウクライナ支援 | 127,500   | 299,800   | 29,810    | 52,157    |
| ニュース購読費 | 64,000    | 20,000    | 8,000     | 4,000     |
| イベント賛同金 | 1,000     | 0         | 0         | 0         |
| 合 計     | 1,030,776 | 1,520,359 | 1,190,970 | 2,174,477 |

## ♡ 団体名一覧 ♡

(順不同・敬称略)

紙面の都合上個人名は省略させていただきます。ご寄付をいただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

6月 ピースライブインこうち、日本基督教団奥中山教会、夢民村

7月 自治労日野職員組合、「非核平和」写真・絵画展事務局内・ウクライナ支援カテリーナコンサート

9月 日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会、イエス・キリスト教会祈りの家



## ●救援状況

2023年6月～9月

(単位:円)

|                         |           |
|-------------------------|-----------|
| <ウクライナ>                 |           |
| ◎チェルノブイリの子どもたちの生存       |           |
| 里親支援(半年分×5人)            | 218,985   |
| 緊急支援(半年分×3人)            | 131,391   |
| ◎内分泌研究所                 |           |
| 医薬品代                    | 2,919,800 |
| <ベラルーシ>                 |           |
| ◎困難の中の子どもたちへ希望を         |           |
| 里親支援(半年分×43人)           | 1,900,660 |
| 緊急支援(半年分×14人)           | 618,819   |
| チェルノブイリ被害者家族の保養:参加者の保養税 | 16,015    |
| <スウェーデン>                |           |
| ◎Star of hope           |           |
| ウクライナの甲状腺患者への緊急支援       | 371,550   |

## ～みなさまからのメッセージ～

●核の危険を伴うウクライナ戦争、一日も早く、命と暮らしの平穏が取り戻されることを願っています。(愛知県 Nさん)

●子どもたちのための活動、本当にありがとうございます。「未来の福島こども基金」主催の報告会(8月6日)にZOOM参加しました。福島もベラルーシもウクライナも、大人の勝手な行動で子どもたちが犠牲になっていること、本当に申し訳なく思います。自分で考えることをやめず、できることをするしかありません。(大阪府 Tさん)

## \*\*\* 販売品 \*\*\*

- ◆マトリョーシカのマグネット 各500円
- マトリョーシカのキーホルダー
- ◆ベラルーシ製リネンクロス サイズ49cm×70cm 800円
- ※送料別(実費) 子ども基金HPに画像を掲載しています。

## ★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。

(1)郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金

(2)ゆうちょ銀行口座 店番 019 店名 ○一九店(ゼロイチキュー店)

預金種目 当座0098316 受取人名 チェルノブイリコドモキキン

(3)三菱UFJ銀行 支店名(番号):新宿中央支店(469)

口座番号:普通 1688367 口座名:チェルノブイリ子ども基金



## 事務局から

### ■「基金ニュースレター」について

ご寄付をくださった方に、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。ニュース購読費(2,000 円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

※ニュースレターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。

※ニュース発送経費を節約し、なるべく多くのお金を子どもたちの保養や医薬品に活用したいと思います。そのため長期間、募金・カレンダー購入などのお振り込みがない方へのニュース発送は停止とさせていただきます。事情をご理解いただけましたら幸いです。

### ■ボランティア募集

ニュース発送作業(年 3 回:2・6・10 月):お手伝いいただける方を募集します。次回は、2024 年 2 月中旬の予定です。感染対策のため日程・定員が流動的です。事務局へお問い合わせ下さい。

場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10 階)

※参加ご希望の方は、前日までにメールかお電話でご連絡ください。電話は平日午前 10 時～午後 5 時。留守の場合は伝言をお願いします。



### ★編集後記★

戦争が終わるまでウクライナ国内での保養はできないと思っていましたが、今号で報告しているように多くの人々の尽力で 7 月に実施することができました。保養は終わり、全員無事に帰宅できましたが、気は晴れず不安は尽きません。一部しか掲載できませんでしたが、子どもたちの感想文には、戦争によりどれほど怖い思いをしてきたのか、安全な場所での保養でどれほど心が解放されたのか、素直な言葉で綴られています。一方、ベラルーシでの保養にも不安がつきまといました。ベラルーシへの送金は、

＊＊ ご協力いただいているみなさまへ ＊＊  
振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

#### すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便振込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

#### 払込取扱票のお名前・ご住所は楷書で

##### ご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

#### 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で受領確認の連絡をご希望の方に、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

#### 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収証がご入り用の際は振込用紙の該当欄に印をつけてください。

かねてからの経済制裁が今度の戦争でさらに厳しくなったため、ますます難しくなっています。さらにベラルーシ国内でも、外国送金に対する当局の監視が厳しくなり、現地救援団体の口座に入金した資金を引き出すのに数カ月を要しました。自国の放射能汚染地域に暮らす病気の子どものための支援であっても考慮はされないようです。生まれた国に関係なく、子どもたちの健康と安全な生活、笑顔が守られる世界であってほしいと切に願います。

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年 3 回(2・6・10 月)発行●

住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町 3-16-15-408

Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

◇ウェブサイト <http://ccfj.la.coocan.jp/>

◇事務局ブログ <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>



※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。